民舟録（2012 年度～）

D.カイバード『『ユリシーズ』と我ら』水声社　2011.

U.オコナー編著『われらのジョイス』みすず書房　2009.

宮田恭子『ジョイスのパリ時代―『フィネガンズ・ウェイク』と女性たち―』みすず書房 2006.

結城英雄『ジョイスを読む―二十世紀最大の言葉の魔術師―』集英社新書　2004.

M.アトウッド『ペネロピアド』角川書店　2005.

丸谷才一『持ち重りする薔薇の花』新潮社　2011.

森功『狡猾の人―防衛省を喰い物にした小物高級官僚の大罪―』幻冬舎　2011.

司修『本の魔法』白水社　2011.

水林章『カンディード―＜戦争＞を前にした青年―』みすず書房　2005.

鳥飼久美子『「英語公用語」は何が問題か』角川 one テーマ 21　角川書店　2011.

富松保文『アリストテレス―はじめての形而上学―』NHK ブックス　2012.

A.S.ボザマンティエ＆I.レーマン『偏愛的数学―驚異の数―』岩波書店　2011.

A.S.ボザマンティエ＆I.レーマン『偏愛的数学―魅惑の図形―』岩波書店　2011.

YEO・エイドリアン『πとｅの話―数の不思議―』青土社　2008.

岩瀬達哉『血族の王―松下幸之助とナショナルの世紀―』新潮社　2011.

堤未果『政府は必ず嘘をつく―アメリカの「失われた 10 年」が私たちに警告すること―』角川 SSC 新書　2012.

田中英道『「写楽」問題は終わっていない』祥伝社新書　2011.

今田高俊・鈴木正仁・黒石晋編『社会システム学を目指して』ミネルヴァ書房　2011.

橘川武郎『歴史学者、経営の難問を解く』日本経済新聞出版社　2012.

佐藤直樹『40 年後の『偶然と必然』－モノーが描いた生命・進化・人類の未来―』東京大学出版会　2012.

西村賀子『ホメロス『オデュッセイア』－＜戦争＞を後にした英雄の歌―』岩波書店　2012.

亀山郁夫『謎解き『悪霊』』新潮社選書　2012.

ジャンバッティスタ・ヴィーコ『自伝』平凡社ライブラリー　2012.

J.ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』（宮田恭子･編訳）集英社　2004.

渡邉義浩『魏志倭人伝の謎を解く―三国志から見る邪馬台国―』中公新書　2012.

ボッカッチョ『デカメロン』（平川祐弘訳）河出書房新社　2012.

J.コーエン『チンパンジーはなぜヒトにならなかったのか―99%遺伝子が一致するのに似ても似つかぬ兄弟―』講談社　2012.

川勝平太『「鎖国」と資本主義』藤原書店　2012.

渡部直己『日本小説技術史』新潮社　2012.

S.グリーンブラット『1417 年、その 1 冊がすべてを変えた』柏書房　2012.
（*The Swerve-How the World Became Modern*）

上田正昭『私の古代日本史　上下』新潮選書　2012.

堀江義人『毛沢東が神棚から下りる日―中国民主化のゆくえ―』平凡社　2013.

加藤治郎『将棋は歩から　上中下』東京書店　1999.

小堀桂一郎『森鴎外―日本はまだ譜請中だ―』ミネルヴァ書房　2013.

池田美紀子『夏目漱石―眼は識る東西の字―』国書刊行会　2013.
桐野夏生『ハピネス』光文社　2013.
米長邦雄『将棋の天才たち』講談社　2013.
鳥居民『それでも戦争できない中国』草思社　2013.
溝口敦・荒井香織編著『ノンフィクションの「巨人」佐野眞一が殺したジャーナリズム』宝島社　2013.
O.ストーン・P.カズニック『もう一つのアメリカ史１・２・３』早川書房　2013.
　１.「2 つの世界大戦と原爆投下」
　２.「ケネディと世界存亡の危機」
　３.「帝国の緩やかな黄昏」
竹中克久『組織の理論社会学―コミュニケーション・社会･人間―』文眞堂　2013.
K.ヒル＆L.マッカビン『ミセス・ケネディ』原書房　2013.
佐藤一『松本清張の陰謀―『日本の黒い霧』に仕組まれたもの―』草思社　2006.
上野誠『書淫日記―万葉と現代をつないで―』ミネルヴァ書房　2013.
野口武彦『慶喜のカリスマ』講談社　2013.
中野明『グローブトロター―世界漫遊家が歩いた明治日本―』朝日新聞出版　2013.
堤未果『(株)貧困大国アメリカ』岩波新書　2013.
F.スタントン『歴史を変えた外交交渉』原書房　2013.
M.ケリガン『図説　アメリカ大統領―権力と欲望の 230 年史―』原書房　2012.
志賀浩二『大人のための数学』全 7 巻　紀伊国屋書店　2007-2009.
第 1 巻『数と量の出会い―数学入門―』2007.
第 2 巻『変化する世界をとらえる―微分の考え、積分の見方』2007.
第 3 巻『無限への飛翔―集合論の誕生―』2008.
第 4 巻『広い世界へ向けて―解析学の展開―』2008.
第 5 巻『抽象への憧れ―位相空間：20 世紀数学のパラダイム―』2008.
第 6 巻『無限をつつみこむ量―ルベーグの独創―』2008.
第 7 巻『線形という構造へ―次元を超えて―』2009.
N.クリフ(2011)『ヴァスコ・ダガマの「聖戦」』白水社　2013.
川口マローン恵美『住んでみたドイツ―8 勝 2 敗で日本の勝ち』講談社α新書　2013.
高橋由明『企業経済学の基礎―企業目的、歴史理論、方法―』中央大学出版部　2013.
桐野夏生『だから荒野』毎日新聞社　2013.
遠山美都男『大化改新と蘇我氏』吉川弘文館　2013.
盛山和夫『社会学の方法的立場―客観性とはなにか―』東京大学出版会　2013.
S.グリーンブラット（高田茂樹訳）『シェイクスピアの自由』みすず書房　2013.
山下和也『システムという存在』晃洋書房　2013.
西成彦『胸騒ぎの鴎外』人文書院　2013.
中村明『吾輩はユーモアである―漱石の誘笑パレード―』岩波　2013.
明智憲三郎『本能寺の変―431 年目の変―』文芸社文庫　2013.
加藤康男『紫禁城の虜―ラストエンペラー私生活秘聞―』幻冬舎　2014.
高山宏『夢十夜を十夜で』はとり文庫　2011.

藤原章生『資本主義の「終わりの始まり」－ギリシャ、イタリアで起きていること―』新潮選書　2012.
秋田巌『写楽の深層』NHK ブックス　2014.
野口武彦『忠臣蔵まで―「喧嘩」からみた日本人―』講談社　2013.
小野俊太郎『本当はエロいシェイクピア』彩流社　2013.